

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 4月13日

研究・研修課題名	薬剤関連照会事例のオンラインデータベース化による医療の質の向上
研究・研修組織名（所属）	薬剤部（薬剤部）
研究・研修責任者名（所属）	後藤 貴樹（薬剤部）
共同研究・研修者名（所属）	西村 信弘、玉木 宏樹、石原 慎之、北郷 真史（薬剤部）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本医療機能評価機構によると医療事故報告件数は年々増加し、また、ヒヤリハット報告件数に占める薬剤関連事例の割合は約 35%と報告されている。薬剤師は日々病棟において医師・看護師などからの医薬品に関する多くの質問を受け回答を行っている。その中には配合変化情報や併用禁忌薬剤に関する情報、あるいは副作用対策など医療安全や医療の質の向上に繋がる情報が多く含まれている。

薬剤部では現在 ISO9001 認証を取得しており、その中で薬剤部理念として「有効で安全性の高い薬物療法の提供に貢献するため、良質な薬剤業務サービスを実施する」と謳っている。良質な薬剤情報提供サービスを実践するうえで、過去の薬剤情報提供の内容を薬剤部内で共有することは有用である。現在、薬剤部では薬剤関連照会事例の情報を病棟毎に Excel ファイルで管理し過去の照会事例を参照できるようにしているものの、複数人が同時に閲覧・記録することができず、また、多職種で情報を共有する環境にも無いため有効に活用できているとは言い難い。

本研究は、これらの情報を一元化し院内 web で共有化することにより過去の照会事例の参照を容易にし、医療の質の向上や医療事故の防止に貢献することを目的としたものである。

②方 法

- ①データベースは Filemaker Server 13 の WebDirect 機能を用いて構築した。
- ②データベースに入力する項目は「患者 ID」、「介入場所」、「介入の契機」、「関連薬剤」、「質問・回答内容」、「情報源」、「受け入れの有無」など 17 項目とした。
- ③「薬品名」、「プレアボイド」、「入力者」、「病棟」の 4 項目から過去の介入事例を検索できるようにした。
- ④初年度は薬剤部内にてシステムの運用を構築する。環境が整い次第、重要な事例については多職種が情報共有できるように閲覧対象を拡大する。

③成 果

薬剤師は特別なソフトを使用せずともイントラネットを介して、WEB ブラウザーからの介入事例の入力が可能になり、Excel では不可能であった複数名による同時閲覧・記録も可能になった。また、必要時に即座に過去の介入事例を検索し活用できるようになった（図1）。構築したデータベースには、病棟での薬剤師介入事例に加えて、これまで紙での運用や別のデータベースで管理していた疑義

照会やプレアボイド、DI室への質問なども統合した(図2)。これらのことにより、薬剤師が関与したすべての介入事例を一元化することが可能になり見読性が向上した。さらに、本データベースを用いることにより、入力された介入事例の管理が容易となり、入力された内容を薬剤師が相互チェックする体制を整えた(図3)。

本研究による入力件数をこれまでのExcelによる介入事例の収集と比べると、4月第1週の入力件数は昨年までのExcelベースのものが63件であったのに対し、本研究では97件と1.5倍に増加していた。

本システムの開発、利用により、経験年数の少ない薬剤師でも本データベースに集積された介入事例を参照することで、一定レベル以上の回答を導くことができ、病棟薬剤業務の標準化と質の担保につながると思われる。また、回答を導くまでに費やす時間を短縮することで、薬学的介入の更なる充実を図ることが可能となると考えられる。

今後は、入力された介入事例を部内での研修会に利用するなど薬剤師のスキルアップに繋げていくとともに、事例内容を精査したうえで他職種へも公開し、病院全体の医療の質の向上に貢献していきたいと考える。

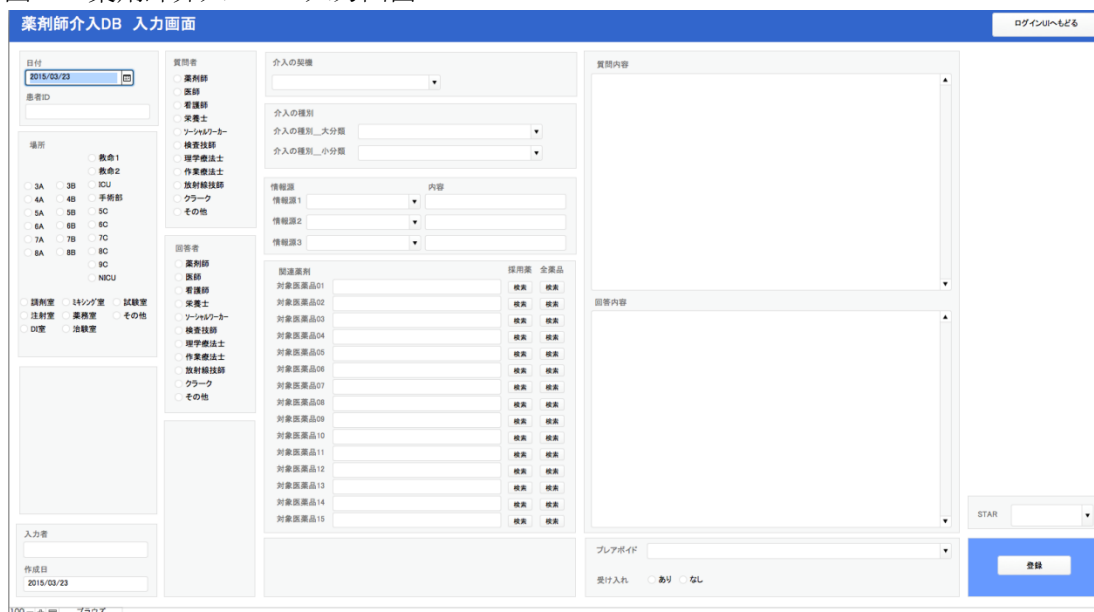
図1 薬剤師介入 DB 初期画面



薬剤師介入 DB 初期画面が表示される。

- ・ 介入事例入力：介入事例を入力する画面への入口
- ・ 介入事例修正：介入事例を修正する画面への入口（自己の介入事例のみ修正可能）
- ・ 介入事例チェック：他者の入力した介入事例の評価をする画面への入り口
- ・ 介入事例参照：様々なキーワードなどから介入事例を検索し参照できる画面への入口
- ・ 要望記入：要望を記入できる画面への入り口

図2 薬剤師介入 DB 入力画面



場 所：介入事例の発生した場所。

質問者：介入の問い合わせを行った人物。

回答者：介入の回答を行った人物。

介入の契機：介入のきっかけ。

介入の種別：介入した内容。大分類→小分類の順に入力。

情報源：情報源。具体的な論文名などがわかっている場合は内容に入力。

関連薬剤：介入事例に関連する薬剤。

質問内容：質問者の質問内容。

回答内容：回答者の回答内容。

プレアボイド：プレアボイドに該当するか否か。

受け入れ：受け入れの有無。

STAR：症例を見つけやすくする目印。

図3 薬剤師介入DB 介入事例チェック画面

年	月	状態	薬剤師	薬剤	用量	コメント
2015/03/16	4A	後援 貴報	バイアスピリン錠	100mg	えええええ	お前お前
2015/03/16	4A	後援 貴報	フェントステープ	1mg	いおう	いえ
2015/03/15	4A	後援 貴報	アダラートCR錠	40mg	アダラートCRの用法が新たになっています。	患者の状況に合わせていますのでそのままOKです。
2015/03/15	5A	後援 貴報	バイアスピリン錠	100mg	あああああ	いらいらい
2015/03/15	4A	後援 貴報	イメンダガブセル	セット(3日分)	イメンダのパンフレットをください	製品情報掲載のことですね。

年月やフロアを入れると介入した事例のリストがピックアップされる
(他者のもののみ表示)。

ピックアップされた中から1つ選択するとチェック画面に移動する。

※チェック画面で評価されたもののみが介入事例検索に表示されるようになる。